

荒川の人

尾久生活学校運営委員長

福田清子さん

ふくだ

きよこ



明るくたくましく

根っからのリーダー

尾久の母親たちが集う「尾久母の会」や「尾久生活学校」をはじめ、荒川区の女性団体のリーダーとして長年地域に貢献されている福田清子さん。

埼玉県で8人兄妹の次女に生まれた福田さんは、結婚を機に荒川区尾久の住人となりました。プラスチック成形加工会社を営むご主人は7人兄妹の長男で、結婚した翌年にはお姑さんが亡くなり、同居していた義理の弟さん、妹さんの母親代わりを務め、会社で働きながら、ご自分のお子さんを育てたそうです。

「昔はごもも兄妹が多く、皆で協力しあって賑やかに暮らしていましたね。会社に家事に育児に、そのうえで地域活動は確かに忙しかったです。外に出れば気分転換になりますし、視野も広がる。家族の理解もあって続けてこれました。活動のきっかけは子供が小学校に入ってからからのPTA活動。役員を頼まれ合に出たりして人と出会い、人脈が広がるにしたがって、活動範囲もずいぶんと広がりました。もともと頼まれると断れないというか、やるっきゃない!と思う性質(たち)なんです」

女学校時代にはバスケットボール部のキャプテンとして活躍し、埼玉OBチームとして団体にも出場したという福田さん。小学校のPTAでもリーダーシップを発揮され、厚い信頼を集めました。その後、福田さんの先輩にあたる、尾久生活学校運営委員長の故・井上ふみさん、区会議員も務めた、故・増淵操さんなどから、社会について勉強を続けることが大切と激励され、役員などの後任を仰せつかったそうですが、福田さんのリーダーとしての資質を見込

まれてのことに違いありません。

母たちの声を集めて

暮らしやすい町づくり

「母の会」は町会の婦人部をベースとして、地域の青少年の育成を見守り、交通安全や防犯の集いを実施したり、夏休みの子供会や助け合い募金・バザーなども行っています。「生活学校」は、安心・安全な社会をつくるために多方面に目を向けて勉強しようという大きな目標を掲げ、自分たちで年間テーマを決めて見学会や勉強会などを行います。福田さんの参加する「尾久生活学校」では、昨年は裁判員制度について学び、今年には防災がテーマ。「要は、お母さんたちも世の中の情報に遅れをとらないよう、自発的に勉強しなかつちゃ、ということよ」と福田さんはにこやかに言います。

そして、学んだことを社会に還元するための提案やボランティアも数えきれないほど行っています。他区の老人ホームを見学に行つて高齢者問題を学び、署名運動を行つて、それまで荒川区になかった特別養護老人ホーム「荒川区立 グリーンハイム荒川」の開設を促しました。施設が完成した後はグリーンハイムでの入浴手伝いや繕いもののボランティアもされ、「特別養護老人ホーム 信愛のぞみの郷」ができるまでは、地域の一人暮らし高齢者に対して、食事の配食ボランティアも行っていました。

「尾久母の会」「日暮里母の会」「三河島母の会」「尾久生活学校」などの8つの女性団体が集まり、平成元年に誕生した「荒川女性団体の会」。個々に活動してきた女性団体が情報交換や連携を深めたい、その活動拠点を求めて、会長である福田さんを

中心に行政にも働きかけました。その成果、平成8年に荒川区立男女平等推進センター「アクト21」が誕生。同じ頃、「あらかわの女性」という180ページにも及ぶ記録誌も発行されました。荒川の女性団体が活躍した人々を中心に、地域女性の活動と想いを次世代へ受け継ぐ記録を、福田さんはじめ会員の皆さんが苦心して1冊の本にまとめたものです。

下町のつながりを

受け継いでほしい

地域と人のつながりを財産に、自分たちでまず勉強し、できる行動を起こし、小さな活動から大きな組織へ働きかけて、暮らしやすい地域づくりを目指す「生活学校」の活動。

「あらかわの女性」の発刊から今年で15年。昔と違って集合住宅も増え、町会などの地域団体に参加する人も次第に減り、いずれの会でも若い後継者が不足している現状があります。

「学ぼう」という意欲はあっても地域活動の場があることを知らずにいる方も多いのではないだろうか。東日本大震災を機に、地域活動が見直され、人と人とのつながりの大切さが改めて認識されています。助けたり、助けられたりという下町の良さを、皆さんに受け継いでほしい。どうすれば若い人たちに伝えていけるかが課題です」と福田さんは語ります。

来年に傘寿を迎えるとはとうてい見えない、生涯現役がモットーという福田さん。お孫さんと一緒に今年はおサンゼルスにプロバスケットボールNBAの観戦にも出かけたそうです。人生を楽しみながら、今後モエエネルギーに地域活動が続けたいだけのことでしょう。

皆で学んで行動して。
人のつながりこそ財産。



地域女性の活動の記録と
想いが詰まった1冊

平成19年2月 東京都知事表彰の報告、西川区長を表敬訪問
(向かって右は阿部荒川生活学校代表)

【プロフィール】

昭和7年埼玉県生まれ。県立久喜高等女学校卒業後、東尾久5丁目にてプラスチック成形加工を営む福田家に嫁ぐ。社会教育・地域貢献を目的とした数多くの組織・団体に活動し、区功労者表彰を受ける。昭和53年発足の「尾久母の会」初代会長、平成元年発足の「荒川区女性団体の会」初代会長ほか。